

審議会等名	令和4年度 第1回 図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	令和5年1月13日(金) 午後1時30分～3時
開催場所	三条市立図書館 2階 ひめさゆり会議室
傍聴者の有無	あり
出席者氏名	<p>【協議会委員】 倉品委員長 長谷川副委員長 清水委員 六原委員 松原委員</p> <p>【説明のための職員】 (生涯学習課) 永井課長補佐 岡田係長 泉田主任 (指定管理者) 篠原館長 川口副館長 鴨井総務責任者 夏目三条営業所長</p>
協議題	<p>(1) 令和3年度の図書館利用状況について (2) 令和4年度7月以降のまちやまの状況について (3) その他</p>
篠原館長	(あいさつ)
	(協議会委員、生涯学習課職員、指定管理者職員の順で自己紹介)
倉品委員長	それでは、協議題(2)「令和3年度の図書館利用状況の説明」をお願いします。
篠原館長	<p>令和3年度図書館の利用状況について説明をする。開館日数は令和2年度同様にコロナ感染拡大防止のため14日間の臨時休館、併せて閲覧スペースの座席数制限、互い違いに座るような配置にするなどの対策は継続した。人と人の接触だけではなく、館内設備や資料との接触利用に伴う感染リスクを気にする方も多かったと思われる。貸出者数や冊数は令和2年度と比較して概ね大きな差は無かったまちやま開館準備のため、当館に所蔵がない本のリクエスト受付を2月3月とめていたため、伸び率に若干影響を及ぼしていると考えられる。以前から継続していた各事業であるが、コロナ禍の影響を大きく受けている。密になることを避けるために視聴覚室や集会室で多くの参加者を集めて開催していた事業は中止の判断が求められた。本のリサイクルはリサイクル市としての特定日開催ではなく、提供できるものが準備できた時に少しずつ出す方法に切り替えた。読み聞かせボランティア講座はマンツーマンでの開催とした。おはなしの出前は予定がキャンセルになることも多く残念であった。</p> <p>新たに始めた事業として三条市立大学との連携がある。市立図書館の存在、新図書館のオープン予定を知ってほしいことから出張登録会を開</p>

	<p>催した。学生だけでなく教職員の登録もあった。併せて大学への団体貸出の提案も行たった。読書通帳がほしいとの声が寄せられたがシステム導入には至らなかったため、図書館オリジナルの読書記録帳を作成した。後半からはまちやまへの移転準備が業務の大きな部分となった。旧図書館の1フロアがまちやまでは4フロアになる。どこに何が置けるかなどフロア構成も慎重にすすめた。今回大きく変わったのはICタグの貼付である。まちやまでの図書館セキュリティーシステム導入のため、タグを貼った後に1冊ずつバーコードに書き込まれている情報の転送作業を行った。また背ラベルをカタカナ表記への変更作業も実施した。</p>
長谷川副委員長	ICタグは分館ではまだ作業は進んでいないのか
篠原館長	まだである。
長谷川副委員長	本館にて貸し出すこともあると思うが大丈夫なのか
篠原館長	自動貸出機での貸出はできない。
長谷川副委員長	今後分館にてもやっていく計画はあるのか。進められるなら少しずつでもやってほしい。
篠原館長	他の自治体でもすべての図書館で導入しているところとそうでないところがある。後ほど説明をするが、本館と栄分館の本については数年前からICタグをわざわざ貼るのではなく、バーコードの中にその機能が含まれている一体型というものを取り入れている。
六原委員	バーコードの件だが、決まった位置に貼られていないことで読み取れないことがあるとの意見をもらっている。自動貸出機を使わない人もスムーズに処理ができるよう貼る位置を統一してもらえると良い。自動貸出機を使う際にそのまま置いてと言われたが世の中が進んでいると感じた。
篠原館長	ラベルを貼る位置は統一されているが、自動貸出機ではICタグが重なると読み取れないという問題があるため、揃えずに置くようお願いしている。
松原委員	盗難数が気になっている。旧図書館とまちやまになってからの盗難数の数字を示してほしい。まちやまの盗難防止の機会が作動したケースはあるのか。
篠原館長	作動したケースはある。のちほど説明をする
倉品委員長	次に(3)「令和4年まちやまの状況について」説明を願いたい
篠原館長	7月24日にまちやまがオープンした。7・8月は新しい施設に興味を持った人が多く来館した。特に最初の1週間は前年同比で7倍以上の入館者数であった。そのうち貸出数は約10分の1だが、市外からの7来館者が多かったためだと思われる。新潟市民は利用者カード登録ができない

	<p>かとの問い合わせも多い。夏休みであるため帰省中の親子三世代と見受けられる来館者も多かった。10月以降は落ち着きを見せ始めた。入館者は9月61,000人が12月には32,000人となったが、貸出者数はほぼ横並びである。見学ではなく図書館機能部分の利用が定着してきたと推察する。今回、自動貸出機、自動返却機、予約本受取室を導入した。貸出返却のためだけにカウンター前に並ぶ必要がなくなり、プライバシー保護も含めて利用者の利便性に繋がっている。まちやま移転後は利用者層に変化が見られるようになった。市外からの来館者が急増し、年代的にも偏りがなくなり、学生利用が圧倒的に増えた。休日は学習コーナーが足りなくなることがあるため、会議室を臨時学習室として開放するなどの対策を取っている。また乳幼児連れの利用者登録が増えた。子どもが声を出すため図書館に来れなかった方々が、1階はにぎわいのフロアとしたことで新たな利用層となっている。開館後の状況変化対応として食事コーナー開設がある。弁当持参の際はテラス席やえんがわを利用しているが、冬季期間はテラス撤去のため12月から3月末まで時間限定で会議室にて食事可能とした。新規事業として電子図書館を開設した。来館せずともスマートフォン、タブレットから365日24時間いつでも借りることが可能である。利用にあたっては専用IDとパスワードが必要である。当初は来館での申請のみであったがメール申請を可能にしたため図書館利用カード登録をしていれば来館せずとも電子図書館登録が可能となった。電子図書館の認知度を上げるためにイベント開催時に利用登録会を実施している。本日は実際に電子図書館の体験をしていただきたい。</p>
川口副館長	(電子黒板を用いて電子図書館の説明)
篠原館長	<p>新たな事業として施設の視察見学対応がある。竣工以前より注目度が高い施設であることから幅広い分野から問い合わせがあった。事前に重視したい項目を確認するなど希望に沿った案内をするよう努めている。小学校幼稚園からの見学依頼にも変化がある。鍛冶ミュージアムの解説を含めた施設全体の見学希望が増えており、まちやまという施設が広い世代に浸透され始めていること実感している。マスメディアからの注目も多く、開館前より既にテレビ局5社、ラジオ局2社、その他新聞や出版関係10社近く取材依頼を受けた。YouTube 配信されることも多くなり、まちやまを全国にPRできる貴重な機会と捉えて積極的に対応している。イベントについて図書館単独の開催のみならず、まちやま全体を使った大規模イベント時の参画、科学教育センター主催イベントや鍛冶ミュージアムの展示に合わせた関連資料展示貸出など複合施設としての役割を担うように考えている。まずは多くの市民に利用した上で新しい図書館の</p>

	在り方を認識してほしい。
六原委員	先ほど鍛冶ミュージアムのことを話していたが、その広報も図書館が窓口になるのか。鍛冶ミュージアムの広報自体があまり周知されていないと言われている。もっといろいろなものを使ってホームページも少し見にくい。今日やっているというものを探しても見ることができない。見逃して行けなかったという意見も出ているので、できれば初心者の人でも見やすい感じのものが良い。一緒に広報するのであれば鍛冶ミュージアムについてもっとホームページに載せてというのはおかしいが、三条市は昔から広報の仕方が下手である。職員の中でも長けている人に選任してやってもらうなどわかりやすくしていただきたいという意見をもらっている。
六原委員	今日何かしようかと思った時に、鍛冶道場で何かやっているというようなことがわかると子どもを連れて行こうかなどとなる。ホームページ自体を見やすくして、その日の情報が1ページ目に上がってくるような感じのものが使いやすいのではないか。「今日のまちやまのイベント」といったような内容を楽しそうに書かれていると行ってみたいという気持ちになると思う。図書館としての本来の姿はあまり変えてほしくないが、新しいものが入ってくるのはとても良いことだと思う。子ども基金などを使って作家を呼ぶなどを三条の子どもにもしてほしい。燕市はそういったことにとっても長けていて、いろいろな資金や予算を使ってオペラなどを20年も前から行っているので市のレベルが上がっている。子どもたちのステージが輝くように考えてほしい。
長谷川副委員長	市外の友人が見に来ていたが視察を依頼すると一人2000円と言われ驚いたと言われた。学校が来た場合にはその額ではないのか。
篠原館長	他の自治体でも金額は様々だが有料のところはある。
松原委員	全体的には知的な感じがして2階へ行く階段も良いと感じるが、隈さんのデザインで壁に枠のようなものが貼ってあるが、あの部分に広報があることもあるのか。
篠原館長	あくまでデザインである
松原委員	以前は読書会やボランティアの一覧が貼ってあったが、そういった広報が貼っている場所はあるのか。
篠原館長	ボランティア室の手前の棚にA4サイズで希望する団体には掲示をしている。
六原委員	一階には見える場所はないのか。今日は何をやっているのかというものが来館してみるとない。お洒落で知的な感じはするが細かい情報がわか

	らない。
篠原館長	以前はチラシ入れがあったが、現在は会議室を出たところにまちやまのイベントチラシなどを入れて、持ち帰れるようにしている。
恋塚課長	別にわかるようにすれば良いと思う。当初はそれもなかった。そこから考えるとファイリングし自由に持っていけるようになったのは改善されたことである1回にイベント系のものは貼れるが他のものは貼れないとルールを決めただけである。ホームページを見てイベントにたどり着く人、2、3日に一度図書館に行っているの何か貼ってあればチェックして行くことができるかもしれない。その辺りは何か考えれば何とでもできることで、今言われたことを踏まえやっつけば、ツールを使っている人使っていない人に伝わるかと考えればよいだけで難しいことではない。
倉品委員長	是非前向きに検討してもらいたい
篠原館長	当日のイベントについては総合カウンターのところの小さい看板で「今日のイベント」して書いてある。この看板を多用していくつかのチラシを貼っている。同じようにサイネージでも案内し、最新のものは総合カウンターにチラシを置いている。また1か月以内のものはまちやま新聞にも掲載している。
恋塚課長	利用される皆さんがそういったものが分かるようになれば良いが、今はまだわからない部分がたくさんあるので、そこをどうやって誘導するか。まずは知ってもらうことに力を入れなくてはならない。
長谷川副委員長	図書館の自由宣言は貼ってあるか。
篠原館長	総合カウンターは図書館だけではないため掲示ができない。日図協がダウンロードを認めるようになったため、3階カウンターにそれを置いている。
篠原館長	不明資料数の件であるが、不明の数は蔵書点検をした際でない出すことができない。それに代わるものとして雑誌の数を確認した。昨年ICタグが貼っていない時には139冊紛失していた。ICタグを貼った雑誌については今のところ紛失が0冊である。雑誌については同じ雑誌を多量に持ち去られることがどこの図書館でも発生しているが、今はなくなっている。先ほど話題に上がった機械が鳴ってしまうことがあるかとの件だが、貸出処理が上手くいかず鳴ってしまうケースやシステムの誤作動でデータ上は貸出になっているがなってしまうケースがある。先ほど栄分館の資料にはICタグ一体型のバーコードを貼っていると話したが、ここに問題がある。栄分館にて貸出処理をした本を持ってまちやまに入るとゲートが鳴ってしまう。その原因は専用の機械を使って貸出をすれば

	鳴ることはない。この機械が栄分館にないため、端末上では貸出処理をされているが BDS としては貸出されていないと判定して鳴ってしまう。
松原委員	実際の盗難はあるのか。
篠原館長	それは蔵書点検をしないとわからない
松原委員	前の館長が三条は盗難数が多いと言っていたので気になっている。新しくなったら数が下がらないと意味がない。
篠原館長	本日お願いしたいことがある。冬になり来館者数が減少傾向にあるイベントは継続していくが、利用者を増やす、あるいは一度の来館だけではなくまた来てもらうための方策が何かないだろうか。また、電子図書館であるが、便利なものをもっと積極的に使ってもらうためにどういった整備をしていくべきなのか。どういったところで使ってもらったらよいか、この方がスムーズに使われていくのではといった意見がほしい。
倉品委員長	図書館ではどんなことを考えているのか紹介してもらいたい。
篠原館長	電子図書館であるが、学校で利用してもらえないかということを考えている。小中学校はタブレットを持っているので、朝読書などの場で ID とパスワードを渡してクラス単位で使ってもらえないかと考えている。今までの団体貸出では 1 冊しか提供できなかったが、一斉の利用が可能な本や図鑑なども電子図書館にはあるのでまずはご利用いただく。学校で電子図書館を使って便利であったという話を家庭での会話でももらえたら次の利用者へ繋がっていくのではないかと考えています。
六原委員	以前学校には出向いてこういったことができますという説明があったと思う。現段階では自動車文庫も行き、団体貸出もしているのか。その時に電子図書館があるなど、学校によって対応が違うので難しいが、興味がある学校だけではなく学校図書館の研修の場でも出してみても良いのではないか。
倉品委員長	議長役を下りて事務局に返す。
篠原館長	(閉会あいさつ)